

【授業科目】助産診断・技術学II（分娩） Midwifery Diagnostics and Technique II

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
高塚麻由、日比千恵、野内香純 産科医	4年次前期	選択	3	45	講義	あり	巻末掲載	否
授業概要 (内容と進め方)及び 課題に対するフィードバック 方法	<p>授業概要／母児ともに安全でよい出産体験になるよう分娩期に必要な助産診断や助産ケアについて学ぶ。分娩経過の正常とその逸脱について理解を深め、分娩期にある産婦に必要な助産ケアを講義や演習を通して学ぶ。根拠に基づいた分娩助産技術を習得する。胎児の健康評価として胎児心拍モニタリングの判読・判定ができる知識を講義により学ぶ。ハイリスクな要因を持った産婦への診断と対応、異常分娩時（吸引分娩・帝王切開術等）・分娩時の異常出血の診断と対応について学ぶ。講義は教科書、配付した資料を用いる。また、分娩助産技術に関する演習を実施する（グループワーク）。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／レポート・シミュレーションセッション時の講評。助産技術試験評価及び講評。</p>							
実務経験に関する授業内容	産科領域の臨床経験を持つ教員が、助産師として必要な分娩期の知識について、視聴覚教材や経験を交えながら授業を進める。							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「看護の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき看護を実践できる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> ① 分娩期に必要な経過診断等助産診断ができるための基礎知識（分娩期にある胎児のモニタリングの判読・判定を含む）を述べることができる。 ② 分娩期にある産婦の分娩進行に伴う産婦及び家族に必要な助産ケア実施のための助産診断（分娩開始、経過診断）と助産過程の展開ができる。 ③ 分娩経過の正常からの逸脱、異常の早期発見ができ、異常発生の対応について述べることができる。 ④ ハイリスクな要因を持った産婦への診断と対応、異常分娩時（吸引分娩・帝王切開術等）の診断と対応について述べることができる。 ⑤ 分娩助産に必要な基礎的助産技術を習得する。 							
時間外学習に必要な内容・時間	<p>【事前学習】第1～23回：母性看護援助論II、母性看護学実習、周産期医学、助産診断技術学I各30分 【事後学習】第1～23回：学習した内容を教科書で調べなおし、自己学習ノートにまとめる。ノートは助産学実習で使用できるように工夫して作成すること。分娩助産技術は各自演習すること。（150分）</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 助産師が行う分娩期のケアとは</p> <p>第2-4回 分娩期の助産ケアに必要な基礎知識を学ぶ、分娩の生理：定義と種類、分娩が母体及び胎児に及ぼす影響、分娩の生理：分娩の3要素、分娩経過の診断</p> <p>第5-6回 産婦の健康生活状況、心理的社会的変化と産婦及び家族への支援、分娩経過に伴う助産過程展開とケア</p> <p>第7回 ハイリスク・異常分娩時の助産診断と助産ケア、緊急時の対応</p> <p>第8回 分娩時の産科手術と看護(吸引・鉗子分娩、帝王切開時の看護、分娩時の異常出血と対応)</p> <p>第9-12回 事例に基づいたシミュレーションセッション（GW） 分娩経過に伴う情報収集とアセスメント・診断（内診の診察技術、分娩室の準備・清潔野の作成を含む）</p> <p>第13-16回 事例に基づいた分娩助産技術に関するシミュレーションセッション（GW） （手洗い・ガウンテクニック 分娩第1期の経過観察とリラクゼーションを含む）</p> <p>第17-20回 事例に基づいた分娩助産技術・経過に伴うケア、出生直後の児の取り扱いに関するシミュレーションセッション（GW）</p> <p>第21-22回 胎児心拍モニタリング</p> <p>第23回 分娩助産技術試験</p>						<p>第16回 高塚</p> <p>第78回 野内</p> <p>第9-20回 高塚、日比、野内</p> <p>第21-22回 産科医</p> <p>第23回 高塚、日比、野内</p>	
評価方法 評価基準	定期試験 60%、事前学習等自己学習ノートのまとめ 30% 分娩助産技術 10%							
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 助産学講座5 助産診断・技術学I 医学書院 2) 助産学講座7 助産診断・技術学II[2]分娩期・産褥期 医学書院 3) 今日の助産改訂第4版 北川真理子 南江堂 4) 胎児心拍数モニタリング講座 藤森敬也 5) 最新産科学 正常編 荒木勤 文光堂 6) 最新産科学 異常編 荒木勤 文光堂 			参考書等		<p>助産師基礎教育テキスト 2024年版 第5巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版</p> <p>助産師基礎教育テキスト 2024年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版</p> <p>正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合 進純郎他 医学書院</p> <p>産婦人科診療ガイドライン産科編2023 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修</p>		
学生への助言等	助産学実習はこの授業の最後に行う分娩助産技術試験の合格が必須です。事前学習が多くあります。時間外での自己学習・グループワーク（GW）に努めてください。							